

令和 2 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1472601812	事業の開始年月日	平成15年 4月 1日
		指定年月日	平成15年 4月 1日
法人名	社会福祉法人 久寿会		
事業所名	グループホーム中の郷		
所在地	(252-0135) 神奈川県相模原市緑区大島1606-1		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	27名
		ユニット数	3ユニット
自己評価作成日	令和3年2月8日	評価結果 市町村受理日	令和3年8月12日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎日の生活を穏やかに安心して過ごして頂けるように、寄り添うことを大切に支援をしています。特に認知症状によるBPSDが発生した時は支援者として存在を認識頂けるよう寄り添いながら、行動を共にしたり見守るなど、支援内容を状況に合わせています。毎月の研修会では、各委員会、各ユニットごとに企画をし、今のグループホームに足りないことなどを取り上げ、スキルアップに努め、支援に活かせるよう取り組んでおります。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区山下町23番地 日土地山下町ビル9階		
訪問調査日	令和3年2月22日	評価機関 評価決定日	令和3年5月13日

※新型コロナウイルス感染予防の為、事業所訪問をせずにオンライン調査を行っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所の概要】

グループホーム中の郷は、JR横浜線橋本駅からバスで10分、バス停から3分の新興住宅地の中にある。同じ敷地内に設置法人が運営する特別養護老人ホーム、ケアハウス、居宅介護支援事業所、通所介護事業所がある。新型コロナウイルス感染予防上、ホーム外への散歩が難しい状況でも広い敷地内を一周するだけで20分程度の散歩となり、利用者の下肢筋力の維持や気分転換に役立っている。

【継続的なケアへの取組み】

利用者が認知症によるBPSDを生じた際に職員は手厚いケアを実践し、どのような状況になっても、ケアを諦めない姿勢で臨んでいる。また、職員は、3か月毎に自分たちのケアで足りないと思われる内容を洗い出し、その改善をケア目標として掲げている。目標達成を目指すことが自分たちのケアの質をより向上させるという意識で日々のケアを実践している。

【食事を楽しむ工夫】

入居時に利用者の思考を確認し、嫌いなものは提供せず、食事を楽しんでもらうようにしている。また、毎月「食事レクリエーション」、「おやつレクリエーション」、「出前の日」を少なくとも1日ずつ設け、利用者の好みを聞きながらメニューを決めている。時にはカップラーメンを数種類用意して、好きなものを選んでもらう時もある。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム 中の郷
ユニット名	けやき

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/>	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/>	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	出勤時に確認するファイルの1番前に理念を掲示している。職員間での共有をはかり、実践につなげていけるように努めている。	理念は毎年管理者と職員とで確認している。理念に加え事業所の目標があり、これは3ユニットそれぞれの目標をまとめたものとなっている。理念及び目標は事務所内に掲示し、常に職員は意識してケアに当たっている。利用者が認知症のBPSDを発生した際に、職員は手厚くケアし理念の実践を心掛けている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日々の散歩や外出、買い物で地域に出掛けている。また、ボランティアによる毎月の習字、定期的なイベント行事にも参加して頂いたり、交流を深めていたが、今年度はコロナの影響にて困難になっている。	地域より1月のどんど焼きの案内を受けたが新型コロナウイルス感染予防の観点から参加を見送った。従来行っていたホーム敷地外への散歩もマスク着用が難しい利用者がいるために敷地内での散歩にとどめた。ボランティアの来所も全て中止としているが、職員で構成しているボランティア担当委員会は、各ボランティアとの連絡を常に取り、いつでも再開出来るようにしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にてユニット毎の活動報告等の日常活動報告を行う事で理解して頂けるように努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎月の活動などを報告し、意見や情報を頂いたり、身近な意見として参考にさせて頂けており、サービスの向上に繋げていけるように努めている。コロナ禍においてもユニット内のイベントの取り組みが多くできており良い評価を頂いている。	2020年度は敷地内の他の事業所で集合形式での開催が可能なスペースを確保出来たので、5月以降奇数月に実施した。参加者は、自治会長、民生委員、地域包括支援センター職員、家族代表となっている。会議では、災害時の利用者の過ごし方についての質問などを受けている。また、新型コロナウイルス感染予防上、面会が出来ない中で便りや電話での密な情報提供への高い評価を家族代表より得ている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域高齢者支援センターの職員との協力関係を築けるよう努めている。	行政からの情報は地域包括支援センター経由で入手している。運営推進会議の議事録は、緑区介護保険課に郵送または持参している。相模原市福祉基盤課とも問い合わせや相談を電話にて行っている。コロナ禍では、相模原市高齢者福祉施設協議会よりマスクや消毒液の支給を受けた。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束会議や研修会を行い、拘束がないように働きかけている。グループホーム内にて起こりやすい拘束についても踏み込んで検討している。	身体拘束防止委員会を3か月に1度開催し、各ユニットでの拘束の有無を確認し、身体拘束に該当するケアとならないように勉強会も開催している。管理者はスピーチロックに関し、「家族の前でも同じ言葉で話せるか？」と問いかけながら、常に言葉を選択するように指導している。	スピーチロックに関し、既に留意されていますが、勉強会、研修を通じて、更に利用者の行動を制限しない声掛けが行われることを期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を行う事により理解を深め、職員の知識や意識の向上により防止に繋げていけるように努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者を窓口にし支援している。各職員には研修や勉強会で学ぶ機会を設け、理解できるように取り組んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入・退居の時は利用者や家族に管理者から納得できるまで十分に話し合いを行い、理解し安心して頂けるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置したり、面会や家族会・プラン説明等で意見を伺える機会を設け運営に反映している。利用者様には日頃の会話で聞けるように日々努めている。また利用者へどのようにしたいのか尋ねるよう努め、よりよい支援へつなげている。	新型コロナウイルス感染予防上、面会は中止している。家族には、「ホームの便り」や、利用者の様子を知らせる手紙を毎月送付している。また、ADLや生活状況についても頻繁に電話で報告し、家族に利用者の現状を認識してもらうよう努めている。家族からの意見、要望は電話連絡の際や日用品の持参時に確認しているが、特にない。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	リーダー会議やユニット内で職員の意見や提案を話し合う機会を設け、会議で検討事例として話し合う事で、相互理解に努め反映に努めている。	職員は6つある委員会の複数に所属し、各委員会のテーマにそって意見を出しながらホームの運営に関与している。管理者は会議や個人面談の際に意見を聞いている。最近では、コロナ禍以前は朝食用食材の買い出しを行っていたが、コロナ禍のため、外出を回避した方が良いことから、宅配業者の食材を調達したいとの要望が挙がり、検討している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	目標管理シートや業務管理シートなど作成する事によりやりたい事を明確にでき、管理者との面談で言葉にする事により、向上心に繋がっている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の能力に合わせ法人外の研修への参加の機会を設けている。毎月ユニット会議等でも勉強会が行われていて法人内でもスキルアップも図れるよう取り組んで居る。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	定期的にグループホーム部会があり、市内の他施設と事例を持ち寄り意見交換を行う事により知識・技術・サービスの向上に努めている。今年度はコロナの影響にて困難になっている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	関係づくりに努め、コミュニケーションが困難な方へは選択肢の提供などで理解や、信頼関係を築けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の要望や不安な気持ちに耳を傾け、大事な家族をお預かりしているという事を理解し、家族とも協力しあえ、信頼関係が築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前の面談等において、ご本人や家族が望まれる事、その時に必要な事を見極め、状況に適した対応が出来るよう心掛け、安心した生活が送れるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事など日常生活における各場面を利用者と一緒に行う事により関係性を築けていけるように取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族参加行事の実施や月に1度の手紙で近況を伝える事で双方の絆と時間を大切にしていける環境作りに努め、家族と職員がともに支えていける関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみのものや写真などを持参していただき落ち着ける空間を作れるように努めると共に想いや希望に寄り添えるような支援を心掛けて取り組んでいる。	新型コロナ感染予防上、家族との面会は禁止している。利用者は家族が日用品を持参した際にホームの内線電話を使って話をするがある。また、インターネットを使ったビデオ通信のシステムもあるが、使用頻度はまだ少ない。家族には、利用者の様子を毎月手紙で報告している。時には塗り絵や書道の作品を各々の家族宛てに同封する事もある。友人の来所も出来ないが手紙や電話の取次ぎは行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	その時々にあった関わりを大切にした支援を行っている。利用者同士の間関係を職員も把握に努める事により、その時々状況に応じた支援を行うよう取り組んでいる。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	敷地内の特養へ移られても行事や面会を行ったりし会う機会も多く家族との繋がりも大切にするように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご利用者様との会話などの中で希望や意向の把握に努め、自己決定の機会を大切にしている。又家族の協力も得て思いや希望に応えられる様に検討してる。	入居時のアセスメントにより、思いや意向を把握している。把握が困難な利用者に対しては、家族に代弁者になってもらうこともあるが、利用者判断しやすい選択肢を示しながら、その表情から把握することが多い。ADLが比較的高い利用者とは寮母室で共同作業をしながら、意思の疎通を図ることもある。把握した意向は、申し送りノートで共有し、ケアプランにも反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に生活歴や生活環境をご本人様やご家族様から伺い、把握に努めている。また個人ファイルを作成する事により共有把握出来る様に取り組んでいる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々変化があるので、常に話し合いを行い情報の共有に努め、1人ひとりの現状把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン見直し時や状態変化のある時はモニタリングやアセスメントを行い、介護計画を作成している。	入居時に初回ケアプランを作成し、1~2か月後にモニタリングで見直しを行い、本プランに移行させる。長期目標は1年、短期は半年としている。モニタリングは3か月に1度、「ケア内容経過表」と「ケア記録」を使いながら実施し、ケアプランの見直しを検討している。家族には、電話にてケアプランの説明を行い、その際に意見、意向を確認するようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	連絡帳、毎日の申し送り、ケース記録に残し、職員間で情報を共有し介護計画の見直しや実践に活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族の状況に合わせ、話し合いをしながら、その時々で柔軟に対応出来る様に心掛けている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	散歩、外出、外食、の実施。地域ボランティアとの関わりなどで活気が出てもらえるように、安全な生活を楽しめるよう配慮し、支援していくように努めている。今年度はコロナの影響にて困難になっている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療が定期的であり、提携病院への受診など本人及び家族等の希望を大切に、適切に医療を受けられるよう支援を行っている。	内科に関しては、利用者は全員365日・24時間対応の協力医療機関の訪問診療を月に2回受診している。外部への通院は家族対応とし、受診結果は電話で確認し、ケア記録に記載している。訪問歯科は毎週1回で、必要な治療と口腔ケアを実施している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問診療部と相談や情報の交換などしっかりと行ない連携を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	訪問診療部との情報の共有がスムーズに行え、安心して治療がいき、早期での退院が出来るように信頼関係を築いている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事前確認書や看取りの指針等について利用者・家族・施設側で、話し合いの場を設け、文書を十分説明しながら情報共有に努め取り組んでいる。	入居時に「看取り介護に関する指針」を説明し、終末期と医師が判断した際に、「看取り介護についての説明書」と「看取り介護についての同意書」を説明し、同意を得ている。年に3回開催する看取り委員会の内、2回は看取りの振り返り研修を行っている。昨年の看取り事例は7名であった。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な救命救急の講習や訓練をおこなっており、知識の向上や記述の向上に努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な消防訓練を行っている。また合同会議での勉強会なども行われ、避難方法や手順・技術の向上に努めている。災害時には地域の方を受け入れられる体制も整えている。	消防訓練は設置法人による夜間想定合同訓練で今年度は2回実施し、3月に3回目を予定している。利用者が参加する避難訓練を毎年秋に開催しているが、今年度は新型コロナ感染予防上、中止している。災害対策委員会を年3回開催し、備品の確認や、研修、勉強会の企画とともにBCPの見直しも行っている。防災用備蓄品の水や食料は7日分が用意され、台帳により管理されている。	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	施設内研修で虐待の勉強会を行っており、尊厳や権利・尊重の重要性を学ぶ機会を設けている。個人情報の取り扱い等は常に意識し、保管には気を付け対応している。	毎年9月に管理者による倫理研修を行い、「尊厳を守ることの大切さ」、「スピーチロックを無くし、寄り添うことの意味」を職員は学んでいる。利用者への呼びかけは苗字または名前に「さん」付けで行っている。ケアに関する記録はタブレット入力で利用者の目に触れることはない。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で思いや希望を言えたり、自己決定の機会を多くを持てたり、意思表示や希望を尊重できるような働きかけ、その人らしい生活が送れるよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人ひとりのペースを大切に、その日の利用者の状態等に応じて、希望に沿える支援をし、過ごして頂けるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容院へ家族といかれたり、好みを楽しみながらおしゃれが出来る様に支援している。祭り時などは化粧をしてもらうなどのおしゃれが出来るような支援もしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたいものの要望を聞いたり、準備・片付けなども行ってもらえるよう取り組んでいる。また職員も一緒に食べたりもしている。	朝食は職員による手作り、昼食と夕食は設置法人の特別養護老人ホームからの配食となっている。「食事レクリエーション」、「おやつレクリエーション」それに「出前」をそれぞれ最低でも月に1回実施し、利用者の好みを聞きながらメニューを決めている。入居時に嗜好調査を行い、嫌いなもの、食べられないものは提供しないようにメニューを調整している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食個別に記録しており、体重の増減も含め無理のない程度に量は調整しバランスは栄養士にも関わって頂けている。一緒に食べる事により嗜好等の把握にも努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	支援している方も居れば自立の方もおり、ADLに合わせた支援を心掛けている。毎食後に支援を行っている。巡回歯科での治療や定期的に口腔ケアも行っており清潔保持に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄記録など情報共有により、個々の排泄パターンをある程度予測する事により、誘導し、自立排泄に向けた支援が出来るように努めている。	排泄記録から排泄パターンを把握し、定時誘導している。利用者の排泄へのサインを見落とさないように注意もしている。夜間は利用者の状態を勘案し、睡眠優先、定時誘導と個別の対応をしている。生活リハビリの効果により、パットを使用しなくなった例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時の飲水、毎日の体操や散歩も予防につながるとの意識を持ち取り組んでいる。又ここに合わせて乳製品なども用いて改善出来る様に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	その時々希望等状況に応じて入浴出来る様に支援したり、入浴剤を使用したりなど楽しんでもらえるように取り組んでいる。	入浴回数に制限は設けていないが、週に2回の利用者が多い。時間帯は柔軟に対応している。入浴を好まない利用者はいない。同性介助の希望にも対応している。脱衣場に温風ヒーターを設置し、ヒートショック対策を行っている。湯は入浴の度に交換し、衛生対策を行っている。季節の柚子湯、菖蒲湯も行い、入浴剤も使い、入浴を楽しんでもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	見慣れたものなどを置くようにし、安心して過ごせるように努め、快眠に繋げられるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに処方箋が挟まれており作用や副作用の共通理解を図れるように努めている。内服の変更や状態の変化などは連絡帳やケース記録、申し送りで情報の共有を行い把握に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	手作業や散歩・水やりなど個々に合わせて楽しみや役割を持っていただき気分転換等に繋がれるように支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩を中心にユニット全員でも外出を楽しめるようおこなっている。本人の希望も引き出せるよう家族とも協力し行っており、家族と共に外出へいかれたりもされる。今年度はコロナの影響にて困難になっている。	新型コロナ感染予防上、20分程度の敷地内の散歩をしており、一日に複数回行う利用者もいる。屋上スペースを活用して外気浴を行い、時には食事を摂りながら気分転換を図ることもある。散歩以外では、昼食前のラジオ体操、「ルームサイクル」を使った運動、2階にある回廊を使った歩行運動で生活リハビリを行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理できる方は管理して頂き、買い物等へ出かけた際には使用して頂くように支援している。困難な方は預かったり立て替えたりして買い物ができるような支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望がある場合は電話など対応の支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を置いたり手作りの作品を飾ったりしている。心地よい空間を大切にし居心地良く過ごせるような環境を作るよう取り組んでいる。	リビングには季節の花や「秋の作品展」に出品した書道やフラワーアレンジメントも飾っている。季節や行事に合わせた飾りつけを行い、正月には「中の郷神社」の鳥居を作り、初詣気分を味わった。新型コロナ感染予防上、換気には留意し、居室の換気扇を常時使用するとともに温度湿度管理にも気をつけている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースで談笑しながらテレビを見られたり、多数あるソファに独りでも安らげる空間作りを作ったりしここに合わせた生活が送れるよう心掛けている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具や良く使用していたもの、馴染みのある物などを置くようにし、心地よく過ごせるような居室作りを心掛けている。	エアコン、照明、カーテン、クローゼット、洗面台、換気扇は備え付けられ、ベッドは持ち込みとなっているが、退去者からの寄贈品もある。表札は、秋の作品展に出品した手作りのものに交換した。使い慣れた家具以外で冷蔵庫、仏壇やワープロを持ち込む利用者もいる。また、思い出の写真も飾り、居心地の良い居室としている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の状態を共有し把握に努め、安全に配慮しながらご利用者様が安全で自由に行動できる環境作りに取り組んでいる。		

事業所名	グループホーム中の郷
ユニット名	ゆり

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
		○	3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
		○	3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
		○	3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	CW室に掲示してあり、いつでも確認できるようにしている。また、ユニット会議などで話し合い理念の共有に努め、実践に繋がられるよう努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩に出かけた時などにあいさつを交わしたり、納涼祭や地域のどんど焼きなどに参加し交流している。今年度はコロナの影響にて困難になっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通じて、どのような取り組みをしているのかを理解して頂けるように努めている。また地域の人達の悩み事や相談など支援出来るような体制作りを行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回運営推進会議があり地域の情報やグループホームでの取り組みなどを報告し情報の共有に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域高齢者支援センターの職員と連絡を取りながら情報の共有に努め協力関係を築けるように努めている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員が組織されており、目標に沿って実践出来ているかに注意を払っている。また、定期的に勉強会を行う事により理解を深め身体拘束のないケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について勉強会で学ぶ機会があり、職員は理解し注意を払いケアに努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員は理解し支援出来るように、勉強会で学ぶ機会がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が家族に入居時や退居時に、不安や疑問点などを尋ね十分に説明し納得されるまで話し合い理解出来るように努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱が設置されている。また、職員は家族が面会に来られた時などにコミュニケーションを取り意見や要望が言いやすい環境作りに努め、反映出来るように努めている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、職員の意見や提案などを会議などで聞く機会がある。また、普段からも気軽に意見が言え反映出来ている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員は、目標管理シートや業務管理シートを作成し自分の考えややりたい事を明確にすることで、向上心を持って仕事が出来ている。また、管理者との面談もあり職員環境も整っている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本人の希望や必要に応じて研修や資格の取得を促し働きながらレベルアップ出来る環境にある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	市内のグループホームと定期的に事例検討会を行う部会があり、色々な意見や考えを知る機会があり、知識・技術の向上に努めている。今年度はコロナの影響にて困難になっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時に不安な事や困っている事をを家族や本人に聞きながら安心して生活できるように環境を整えている。職員は常に利用者の方に話を聞きながら信頼関係が築けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族からの要望や不安、困っている事に耳を傾け、職員は大切な家族をお預かりするという事をしっかりと理解し受け止め家族との信頼関係が築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	職員は、本人や家族の話を聞き、何を必要とし求めているのかを見極め安心した生活が送れるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家で生活しているように、何事も一緒に行えるように職員は気を付け支え合う関係を築いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者と家族の時間を大切に考えフロア環境作りや家族参加の行事を開催している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	職員は、家族の協力を得ながら利用者一人ひとりの環境や背景を理解し故郷の話をしたり、馴染みの場所との関係が途切れないうに支援に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	フロアに共同スペースがあり、自然と一緒に過ごせるように環境作りを行っている。利用者同士コミュニケーションが取れるように、一緒にお手伝いを行って頂いたり支え合えるように支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	特養棟に移られた利用者などには面会に行ったり、行事などで会う機会が多くあり利用者や家族との繋がりを大切にしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	職員は毎日の生活の中で、利用者の希望や意向に耳を傾け家族の協力を得ながら実現出来る様に検討している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面接や入居時などに本人や家族に暮らし方や生活歴などを聞き職員は把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員はユニット会議や申し送り、日々の話し合いで情報共有に努め、利用者一人ひとりの現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のユニット会議や担当者会議、ケース記録など参考に利用者の現状について話し合いを行っている。また面会時には家族の意向も聞きながらケアのあり方を職員は共有し介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員はケース記録や個人ノート、会議などを活用し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々状況に合わせて柔軟な対応が出来る様に心掛けている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	散歩や買い物、緑区のボランティア（習字やフラワーアレンジメントなど）の関わりの中で、安全で豊かな暮らしを楽しむことができるように支援に努めている。今年度はコロナの影響にて困難になっている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療が定期的であり、提携病院への受診など本人及び家族等の希望を大切に、適切に医療を受けられるよう支援を行っている。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問診療部と相談や情報の交換などしっかりと行ない連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	訪問診療部との情報の共有がスムーズに行え、安心して治療がいき、早期での退院が出来るように信頼関係を築いている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者、家族、施設側とで話し合いの場を持ち、十分説明をしながら方針を共有し書面の交換を行ない支援を行っている。また看取り委員会が設置されており看取りの勉強会を行うなどの取り組みがなされている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に救命講習会があり、知識や技術の向上に努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防災訓練が行われており、職員は順次参加出来る様になっている。また消防のマニュアルもあり職員は避難方法や手順も身に付けている。		
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	毎月にユニット会議ないでの研修や法人全体での研修などで理解を深めて行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意思や自己決定出来るように声掛けにも注意し意思表示や希望を尊重できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々に合わせた支援を心掛け、希望に沿った支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	職員は、一緒に洋服を選んだり髪をセットしたり行事などはお化粧をしたりとおしゃれが出来るように支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	何か食べたい物を聞き作ったり少しでも楽しめるように努めている。食器拭きなど一緒に片付けを行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に合わせた食事形態を常に検討し、栄養バランスを考えた献立になっている。また水分量も常に確認し提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々に合わせた口腔ケアの実施を心掛け、声掛けをし、行っていたくように努めている。訪問歯科も定期的に行っており、必要に応じて口腔ケアを行なっている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンや排泄間隔の把握に努め、自分で意思表示出来ない利用者には利用者のサインを逃さず、さりげなく声掛けをし誘導している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事に野菜を多く取り入れられており食物繊維を多く摂れるようになっている。ヨーグルトなどの乳製品も出来るだけ摂って頂くように心掛けている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴表を活用し声掛けを行っている。同性支援等にも気を配るようにしている。希望があれば毎日でも入浴出来るように支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調に合わせて横になる時間を設けたり、シーツ交換を行い気持ちよく眠れる環境作りを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの処方箋が1冊に纏ってユニット内に置いてあり、職員は常に把握できるような状態をとり、副作用など理解するように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日中の手伝いやレクリエーション、利用者の好きな事や好きな物、会話の中からもみ取り、気分転換や生活を楽しんで頂けるように取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩などは日常的に行っている。利用者の希望がある場合は家族と相談しながら希望に添えるように支援している。今年度はコロナの影響にて困難になっている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理が出来る利用者はお金を所持している。お金の管理が出来ない利用者は立て替えし買い物出来る様支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望により電話を掛けに行ったり、手紙のやり取りを行なっている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせて物を掲示したりと、季節感が味わえるように努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用スペースには、気軽に過ごせるようにソファやテレビを置いたり好きな場所で過ごせるようにしている。また、その時の利用者の状況に合わせて過ごしやす様に注意している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者や家族と相談しながら居心地よい居室作りを心かけている。また、居室内の環境整備にも気を付ける様に注意している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ケース記録・個人ノート・会議を活用し一人ひとりの能力を理解し安全で出来るだけ自立した生活が送れるように心掛けている。		

事業所名	グループホーム中の郷
ユニット名	ひばり

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/>	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/>	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	CW室の壁に見えるように貼っており、また日ごろからよく使うファイルの始めのページに貼りだしており、職員は理念の共有を行っている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎年行っている納涼祭やどんど焼きに参加したり、日々の買い物や散歩などに行ったりと交流を行っている。今年度はコロナの影響にて困難になっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2ヶ月に1回、運営推進者会議を行い会議を通じて理解を頂けるように行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議や話し合いを通じ、報告や意見などを参考にし、サービスの向上に活かしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターの職員との連携を維持し、協力関係を得られるように取り組んでいる。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会が組織されており、職員は月ごとに個人目標・ユニット目標を掲げ取り組んでいる。身体拘束委員は3ヶ月毎の目標を考え実施している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を行い、専門知識の向上や職員の意識の向上に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会や勉強会で学び、職員は理解できるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入退居時の窓口を管理者が行い、利用者や家族に説明を行っており、安心して頂ける様に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族懇談会やイベント時、面会時などに意見を聞けるようにし、連絡帳への記入、ユニット会議などで話し合いを行い共有し、運営に反映できるように努めている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のユニット会議で話し合いの場を設け、また日常でも相談や意見を言えるようにし個別にて話し合う場を設け、反映していけるように努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	正規職員は年に2回の目標管理シートや業務管理シートを作成し、上司との面談を行っている。非常勤職員も面談を行うことで向上を目指せるように整っている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修の参加や毎月の合同会議での勉強会、グループホーム部会など事例検討会を行っており、職員のスキルアップの向上を行っている。また、資格取得サポートや資格補助制度もある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	定期的に相模原市のグループホーム部会があり、他施設との事例検討や勉強会の実施を行ったりし、向上に努めている。今年度はコロナの影響にて困難になっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	その方の状況や環境の変化を見極め、昔から使っている家具を設置したり、その方に寄り添ったサービスを行うことで、安心して暮らせるように取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者本人の情報や生活の様子を連絡したり、家族の面会時等に困っていることや不安な事などの意見等を聞けるような機会を設け、関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	日々の生活の中の変化等にて本人と家族の思いを汲み取り、その時の状況にあった対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中での色々な生活（外出や料理、掃除など）の場面を共に共有する事で、対等な関係を築けるように努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話での報告と利用者の近況報告や今後の支援方法などを家族様と話し合い、意見を取り入れた支援を行うことで絆を大切に、一緒に支えていく関係を築いていけるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、面会がしやすいよう努めている。なじみの物を持ってきて頂き、落ち着ける居住空間を作れるように努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	外出や日々の生活の場面で共に出来ること（家事やレクリエーション等）や職員が間に入り会話することで関わりを出来る様に行い、孤立化しない支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	特養棟やユニット特養に移動された方は、行事の際に面会にいたり、他事業所と連携をしたりと、支援を継続しやすいような関係を維持できるように努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	職員と情報の共有をすることで、日々の生活の中での本人の思いや希望を共有し、話し合い、応じられるように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に家族に生活履歴等の情報を記入や面会時に話を聞いたりしている。また、日々の生活の会話の中から把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活は記録により状態の把握をし、変化などは連絡帳の記入や会議の場において、職員同士での情報を共有し、現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のユニット会議や担当者会議、連絡ノート等で個々のケアの要点を共有し、現状に即した介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録や連絡ノートを活用し、職員間で情報の共有をしながら支援や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況が必要に応じ、ニーズの変更を行ったりと柔軟な対応に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	散歩や買い物、緑区のボランティア（習字やフラワーアレンジメントなど）の関わりの中で、安全で豊かな暮らしを楽しむことができるように支援に努めている。今年度はコロナの影響にて困難になっている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療が定期的であり、提携病院への受診など本人及び家族等の希望を大切にし、適切に医療を受けられるよう支援を行っている。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問診療部と相談や情報の交換などしっかりと行ない連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	訪問診療部との情報の共有がスムーズに行え、安心して治療がいき、早期での退院が出来るように信頼関係を築いている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階より利用者、家族、施設側とで、話し合いの場を持ち、文章の説明や施設方針を共有し取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修とし、消防所の救命講習への参加、勉強会等にて知識・技術の向上を図るとともに、ユニット内にも緊急マニュアルがあり職員同士での共有を行い、取り組んでいる。オンコール対応の設置。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な消防訓練の実施、火災発生時のマニュアルの熟知、定期的な災害委員会による勉強会の実施等により全職員に徹底を図っている。また事業所全体のBCPの作成、話し合いを行っている。		
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ユニットケア目標にも尊厳を守る支援を行うことを目標に掲げ、職員が意識しながらの支援を行い、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話の中から思いを汲み取ったり、意思や自己決定できるような支援、働きかけをし、日々の生活でその人らしい生活が出来る様に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の希望を聞いたり、体調や生活ペースに合った支援に取り組んでいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝の整容や入浴、行事の際には化粧をしたりし支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居時に嗜好調査を行ったり、日々の食事の会話や、食事レクリエーションなどにより食事を楽しくして頂けるように支援している。また、利用者には食器拭き等手伝って頂いている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士による昼食と夕食の献立による栄養バランスの調整、また食事の摂取量や状態を観察し、その利用者の食事量や水分量を記録に残し、一人一人にあった支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事後の声掛けや支援の必要な利用者には支援を行い、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。また、訪問歯科による口腔ケアや義歯調整を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄記録を活用し、一人ひとりの排泄パターンを把握し、定時の誘導や自立にむけた支援に取り組んでいる。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を多く摂って頂くようにしたり、Drとの連携をし、予防、改善に取り組んでいる。また、毎日の散歩や体操を行って頂き体調面での支援も取り組むようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	朝や昼と時間を問わず、その方の要望に応じた入浴の支援を行っている。また、季節に応じて入浴剤や行事によって柚子や菖蒲湯を楽しんで頂くよう取り組んでいる。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その人の健康状態や気温に合わせて快適に眠って頂けるように、室温や寝具の温度調整を行ったりと環境整備に取り組んでいる。また、日中の体操や散歩をし生活リズムを整えるように取り組んでいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	提携している薬局との連携により薬剤の管理。職員は処方箋にて服薬内容の共有に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日中の手伝いやレクリエーション、利用者の好きな事や好きな物、会話の中からもみ取り、気分転換や生活を楽しんで頂けるように取り組んでいる。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個別での外出や散歩、買い物を行っている。また、日々の会話から本人の希望を把握し家族との連携を取り行っている。今年度はコロナの影響にて困難になっている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理できる方へは、お金を所持し、希望により買い物に出かけたりと対応を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望者には都度、対応をおこなっている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	クリスマスツリー、お正月の生け花、鏡餅などをフロア内に飾り、季節感を感じて頂いている。また、共有の空間は常に清潔感を保つよう環境づくりを行い居心地よく過ごせるよう取り組んでいる。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂とリビングと過ごせる場所を別にし、本人の落ち着ける場所、ソファを設置したり、ベランダにはベンチを設置している。また、いつでも自室にて過ごして頂けるようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に本人が以前から使用していた馴染みの家具や物を家族に持ってきて頂いている。また、居室内でも快適に楽しく過ごして頂けるようぬり絵やテレビなども持参を依頼している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	日々の状態の把握に努め、本人が行いたいことや出来る事を職員同士での把握・共有を図り、その人が出来ることを活かした支援を行っている。		

目 標 達 成 計 画

事業所名

グリーフホームセンター

作成日

23年 7月 7日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1		スピーチワークに 関し、既に留意され ているが、勉強会、研修 会を通じて更に行動 制限への声かけに 期待しよう。	定期的な勉強会 を継続していき、 更に意識向上と 目指す会の内容を 変更していく。	2=7=2=5=7 この目標に基づき 具体的な内容は1 進行具合の把握 強化を図る。	計画作成の 7/11日
2					
3					
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。